

## 日本の社会保障と税収について

清水町立清水中学校 三年 岸田 亮太

「税金が高い!!」

皆さん、そう思ったことはありませんか？

確かに近年は物価高で生活が苦しくなっているのに、二〇一九（令和元年）年に消費税が十％に引き上げられ国民の生活は苦しくなっています。そのため、二〇二五年七月二十日に行われた第二十七回参議院議員通常選挙では消費税の減税を公約に掲げた党が議席を多く集めました。しかし本当に減税は、国民の生活を豊かにする最善の方法なのでしょうか。

税金は、総額を百％とすると三十三・二％が社会保障関係費にあてられています。社会保障関係費は私達が利用する公共サービスや公共施設の提供などに使われるお金で私達の生活に欠かせない病院の医療費の負担軽減や警察や消防の費用支援から高齢の方々への年金や生活援助が含まれています。なので生活を楽にするために税金を無作為に減らしてしまうと私達の生活に多大な影響がでるのです。

「低負担・中福祉」という言葉があります。今の日本の税収と社会福祉の状況を表した言葉で負担が少なめで、国民への福祉が適度にあるということです。しかし世界には「高負担・高福祉」の国がたくさんあり、その代表格が世界幸福度ランキング第一位のフィンランドです。フィンランドは消費税が基本、二十五・五％で日本の約二・五倍、社会保険料は約二十八％で日本（東京）の約二・八倍ととても税負担が高いですが、最初に書いたように世界幸福度ランキングで第一位を獲得している程国民は満足しているのです。なので自分は、税金をある程度上げても良いので国民への社会福祉を増加することが国民の望む豊かな暮らしにつながると 생각합니다。

「低負担・中福祉」から「中負担・高福祉」への転換によって自分は、日本がより豊かにより暮らしやすい国になると思います。今の日本の世界幸福度ランキングは、第五十五位で前年より下がり、先進国の中でも低い結果になりました。だからこそ、負担が増えるのは我慢して私達への社会福祉を上げることが豊かな暮らし、幸福な暮らしにつながるのです。最後にもう一度、この言葉を書いて終わりにしたいと思います。皆さんはどう考えますか？

「低負担・中福祉」から「中負担・高福祉」へ!!